

スペシャルナイト「プラネタリウム 100 周年記念イベント」実施報告

西野 藍子^{*1}, 嘉数 次人^{*2}

概要

近代的なプラネタリウムがドイツで生まれて 100 周年の記念日となる 2023 年 10 月 21 日(土)、日本全国のプラネタリウム施設を Zoom でつないだ全国一斉オンラインイベント、及び、プラネタリウムを用いた機器紹介や昭和レトロ風投影などを交えた当館独自の企画を、スペシャルナイト「プラネタリウム 100 周年記念イベント」として合わせて開催した。本稿では、このスペシャルナイトの実施について報告する。

1. はじめに

現在にいたる近代的なプラネタリウムは、1923 年にドイツのカールツアイス社で開発され、同年 10 月 21 日に初めて試験公開された。その後改良が加えられ、1925 年 5 月 7 日、ドイツ博物館にプラネタリウムが常設されることになり、以降プラネタリウムは世界中に広まった。国際プラネタリウム協会(IPS)では、これを記念して、2023 年から 2025 年にかけてプラネタリウムの 100 周年を祝う記念事業を展開しており、日本プラネタリウム協議会(JPA)でも、同期間に記念事業を行っている。プラネタリウム誕生 100 周年となる 2023 年 10 月 21 日(土)には、JPA のプラネタリウム 100 周年記念事業実行委員会が主導して、全国のプラネタリウム施設を Zoom でつないだ全国一斉オンラインイベントを企画・開催した。当館では、本企画の開催とともにプラネタリウムの機器紹介や電気科学館時代に行われていた昭和レトロ風投影などを交えた独自の企画をスペシャルナイト「プラネタリウム 100 周年記念イベント」として、合わせて開催した。



図1-1.掲出用ポスター

2. 実施概要

このスペシャルナイトの実施概要を以下に示す。

- ・タイトル: スペシャルナイト
「プラネタリウム 100 周年記念イベント」
- ・日時: 2023 年 10 月 21 日(土) 18:30~20:00
- ・場所: プラネタリウムホール
- ・対象: どなたでも
- ・料金: 1,000 円
- ・定員: 250 名(事前申し込み制・先着順)
- ・チケット: チケットカウンター、Web で販売。

2023 年 9 月 15 日(金) 販売開始。

- ・主催: 大阪市立科学館
- ・共催: 日本プラネタリウム協議会
- ・当日のスケジュール:
 - 17:00 準備・会場設営、リハーサル
 - 18:00 開場
 - 18:30 開演
 - 18:30~19:00
 - ① 日本最初のプラネタリウム、そして現在
 - 19:00~19:40
 - ② 全国一斉プラネタリウム 100 周年記念イベント
スペシャルライブ配信
「みんなで見あげよう! 100 年前の星空」
 - 19:40~20:00
 - ③ 電気科学館時代のプラネタリウム投影
 - 20:00 終演

大阪市立科学館 学芸員

^{*1} nishino@sci-museum.jp

^{*2} kazu@sci-museum.jp

3. 当日のようす

当日のようすを、以下(1)～(3)に写真とともに記す。

(1) 開演

嘉数学芸員が開演の挨拶を行い、日本最初のプラネタリウムである大阪市立電気科学館のプラネタリウムについてスライドを用いて解説した。その後、現在大阪市立科学館で稼働しているプラネタリウムについて、西野学芸員が紹介し、星空の投影を行った。



写真 3-1. 開演時のようす

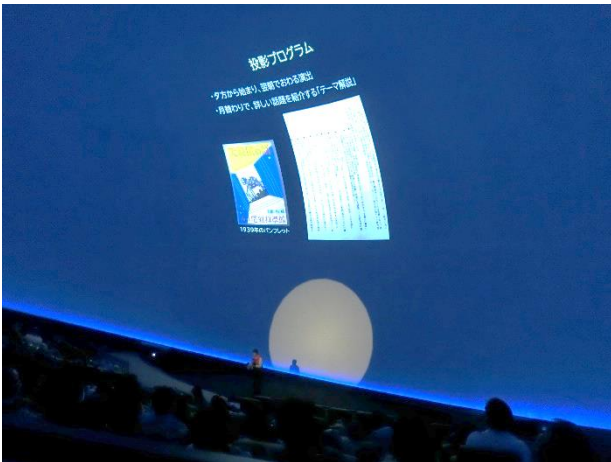


写真 3-2. 電気科学館時代のプラネタリウムの話

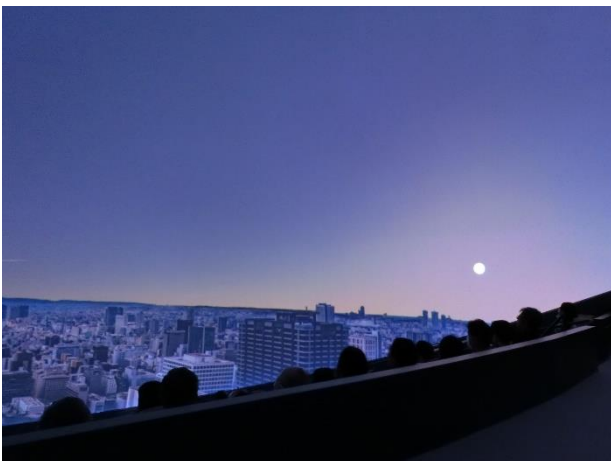


写真 3-3. 大阪市立科学館プラネタリウムの投影

(2) 全国一斉プラネタリウム 100 周年記念イベント スペシャルライブ配信

「みんなで見あげよう！100 年前の星空」

続いて、全国のプラネタリウム施設を Zoom でつなぐ全国一斉オンラインイベントを行った。プラネタリウム 100 周年記念事業実行委員長である明石市立天文科学館の井上毅氏、及び、同副委員長であるコスモプラネタリウム渋谷の永田美絵氏が MC を担当し、ゲストに山崎直子宇宙飛行士を迎え、全国 34 の施設が Zoom にて参加した。ここでは、嘉数学芸員による当館カールツアイス II 型投影機の前からの生中継や、日本プラネタリウム協議会の毛利勝廣理事長によるドイツからの生中継などがあり、最後にプラネタリウムが誕生した 100 年前の今日の星空を全国一斉にプラネタリウムで再現し、プラネタリウム 100 周年をお祝いした。

各会場総参加者は 2,776 人(34 館)、YouTube 同時視聴者数 753 人、累計 5,502 人(2023/10/24 日時点)であった。



写真 3-4. 全国一斉オンラインイベント開始のようす



写真 3-5. ドームに Zoom 画面の映し出し、全国のプラネタリウム施設の皆さんとあいさつしているようす



写真 3-6. カールツァイス II 型投影機前から生中継

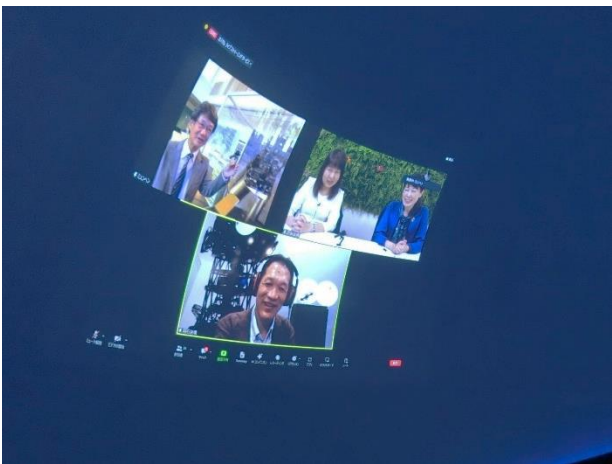


写真 3-7. JPA の毛利理事長によるドイツからの生中継のようす

(3) 電気科学館時代のプラネタリウム投影

100 年前のドイツの星空について嘉数学芸員が解説を行い、最後は 1937 年 3 月 13 日、大阪市立電気科学館が開館した日の星空へとプラネタリウム投影機を操作し、電気科学館時代の解説原稿をもとにした昭和レトロ風解説を行った。

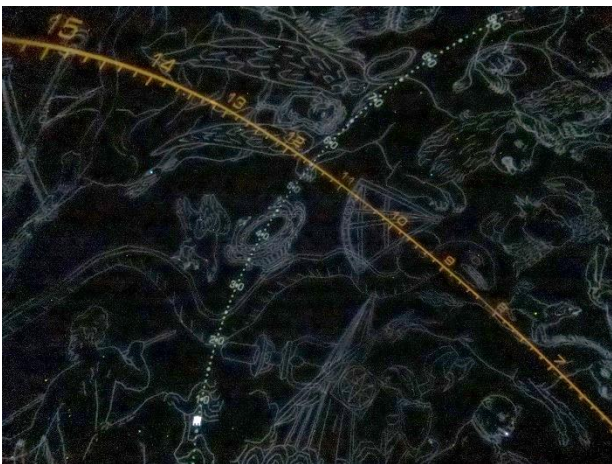


写真 3-8. 嘉数学芸員による昭和レトロ風投影

当日の参加者は 232 名(チケットは 250 名分完売)であった。また今回、参加者に向けて当日パンフレットを作成し、また記念グッズとしてオリジナル缶バッジを制作、配布した。



写真 3-9. 当日配布パンフレット(B4 長辺 2 つ折り)
(デザイン: 大阪市立科学館 永原)



写真 3-10. 記念オリジナル缶バッジ

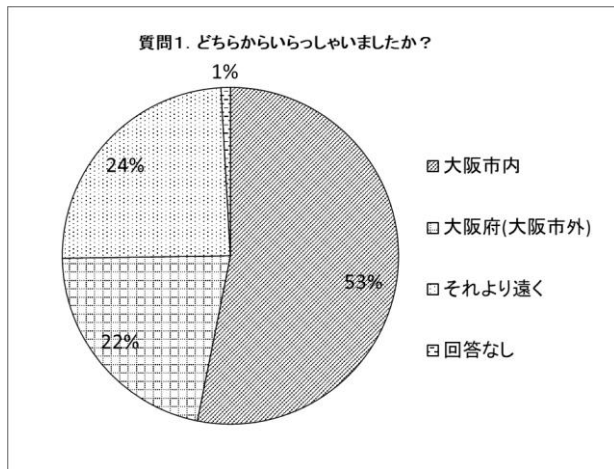
4. アンケート集計

参加者にアンケートへのご協力をお願いした。その結果、参加者 232 名のうち回答数は 111 名で、回答率は 47.8%であった。

アンケート集計結果を以下(1)～(4)に記す。

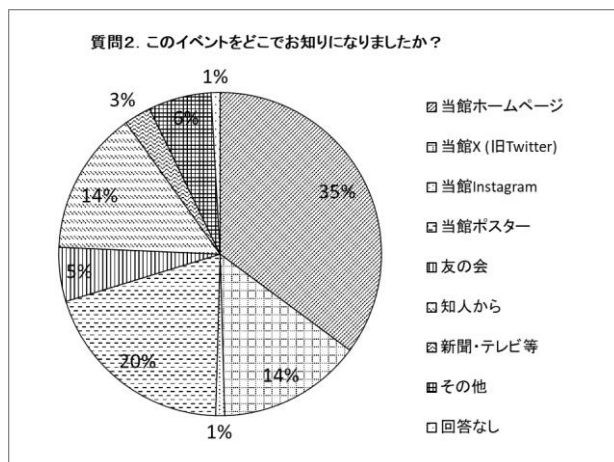
(1)どこから来たか？

大阪市内が半数、大阪府(大阪市内外)が2割ほどと、比較的近郊からのお客様が多かった。



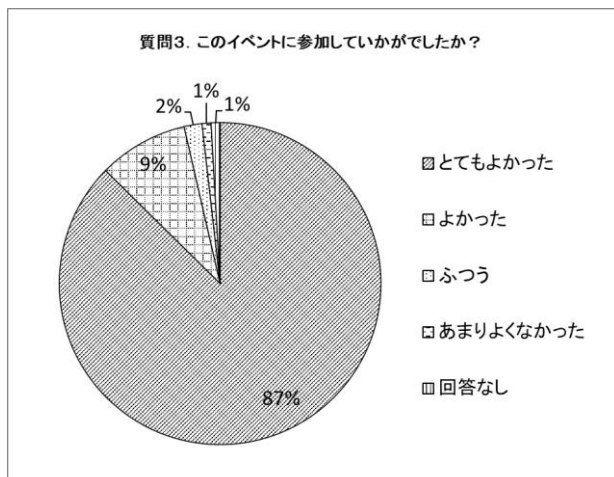
(2)どこでこのイベントを知ったか？

当館ホームページと当館 X(旧 Twitter)を合わせて約半数と多かった。



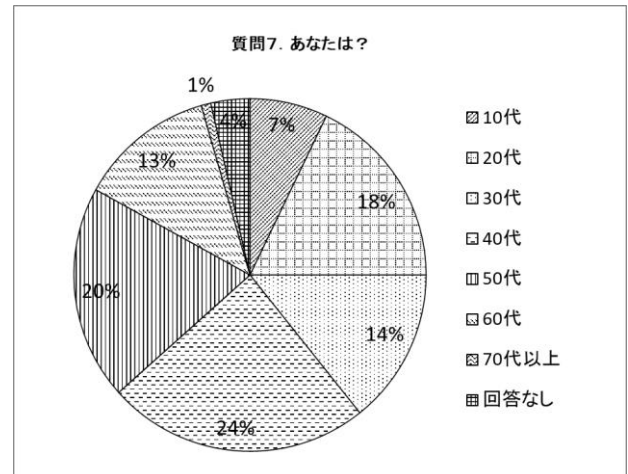
(3)満足度

「とてもよかった」が9割近く、非常に満足していただいたお客様が多かった。



(4)年齢

10代以下は少なかったが、20代～50代はまんべんなく幅広い層にお越しいただいた。



5. おわりに

今回のイベントでは、定員 250 名のチケットは早々に完売し、当日の参加者も 232 名と参加率もかなり良かった。参加者アンケートでのお声として、良かった点としては、ドイツからの生中継、他施設とオンラインでつないだこと、プラネタリウムの歴史を感じられたこと、全国のみんで 100 年前の星空を見あげたこと、電気科学館時代の昭和レトロ風解説を聞いたこと、などの声が複数あった。改善を希望する点としては、オンラインイベントなので、もっといろんな場所との中継をしてほしかった、というお声があった一方で、星空をもっと投影してほしかった、などのお声もあった。

今回、初めての試みとして全国のプラネタリウム施設と Zoom でつなぎ、当館からも生中継を行うなど、機材の準備や設営には十分時間をかけ、リハーサルを念入りに行った。そのおかげでほぼどの施設も滞りなく順調に進められたようである。中でも全国それぞれの違う場所で、みんな一緒に同じ 100 年前の星空を見あげるという体験は大変印象的だったようで、アンケートでもたくさんの嬉しいお声があった。今回のイベントでは、プラネタリウムならではの、「みんなで一緒に」星空を見あげる感動を、さらに広く「全国各地のみんで一緒に」を実現できたことが良かったと考える。今回の実績をもとに、今後も感動を多くの人々と共有する事業を、プラネタリウムを活用して行っていきたい。